

松本広域消防局の住宅用火災警報器の奏功事例《平成19年～》

警報器の音に気づき無事避難した

(H19 23時頃)

一般住宅において、就寝中の居住女性（一人暮らし90歳代）が、住宅用火災警報器の音で目を覚まして台所から発生した火災に気づき無事屋外へ避難しました。異臭に気付いた隣人が白い煙と炎を確認し119通報したもので、半焼に留めました。

鍋のかけ忘れに気づき、火災にならなかった

(H20 14時頃)

住宅兼治療院で、目の不自由な男性（50歳代）が昼食時に台所のコンロに鍋をかけたままであることを忘れ、別室で午後の治療を開始したところ住宅用火災警報器が鳴動し、気付いた男性がコンロの火を止めました。鍋の中身を焦がしたのみで損害はありませんでした。

グリルの消し忘れに気づき、火災にならなかった

(H20 12時10分頃)

一般住宅高齢夫婦世帯において、グリルで魚を焼き終えて取出した後、火を消し忘れたため煙が充満し、住宅用火災警報器が鳴動しました。離れに住む家族が異変に気づき駆けつけたところ、煙が充満していたため119番通報をしました。グリルの加熱のみで損害はありませんでした。

火災にいち早く気づき、部分焼で済んだ

(H20 10時40分頃)

一般住宅において、仏壇のロウソクの火が何らかの原因で仏壇の一部に燃え移ったため火災となりました。居間に設置された住宅用火災警報器の鳴動により、家人が火災に気付いて水道水により消火し、部分焼で済みました。在宅していた家族3名も安全に避難できました。

住警器の音に隣人が気づき、火災にならなかった

(H21 12時20分頃)

長屋住宅の一室において、居住女性（60歳代）が鍋をガスコンロにかけたまま外出してしまいました。隣人が、住宅用火災警報器の鳴動に気づき、煙を確認したため119番通報をしました。通報後すぐに帰宅した居住女性がガスコンロの火を止めました。鍋の中身を焦がしたのみで損害はありませんでした。

鍋等のかけ忘れに気づき、火災にならなかった

(H21 19時20分頃)

共同住宅の一室において、居住者が酩酊状態でフライパンで魚を調理中にその場を離れたため、加熱されたフライパンから発生した煙が屋内に充満し、居間に設置されていた住宅用火災警報器が鳴動しました。本人から119番通報されましたが、フライパン内の魚を焦がしたのみで損害はありませんでした。

鍋のかけ忘れに気付き、火災にならなかった

(H21 17時頃)

共同住宅の一室で、居住女性（80歳代）が鍋をコンロにかけたまま放置したため煙が充満し、住宅用火災警報器が鳴動しました。隣人が鳴動音に気付き、居合わせた別の近隣住民が警察に通報し、警察から消防に通報がありました。現場付近を警ら中の警察官が現場へ急行し、室内に居た住人女性を屋外に連れ出すとともにガスコンロの火を止めました。鍋の中身を焦がしたのみで損害はありませんでした。

住警器の音に隣人が気付き、火災にならなかった

(H21 12時50分頃)

一般住宅において、居住男性（70歳代）がガスコンロに鍋をかけたまま外出してしまいました。住宅用火災警報器の鳴動に気付き、煙を確認した隣人が119番通報をしました。現場に到着した消防隊が裏口から室内に入り、ガスコンロの火を止めました。鍋の中身を焦がしたのみで損害はありませんでした。

鍋のかけ忘れに気付き、火災にならなかった

(H21 19時20分頃)

長屋住宅の一室において、居住女性（70歳代）がガスコンロに鍋をかけたまま隣室で食事をしていたところ、住宅用火災警報器が鳴動したため、気付いた本人がガスコンロの火を止め、警報器が作動したことで心配になり119番通報をしました。鍋の中身を焦がしたのみで損害はありませんでした。

火災にいち早く気付き、小火で済んだ

(H21 14時頃)

一般住宅において、タバコの火が布団に着火して火災となりました。隣接の工場で仕事中の世帯主男性（70歳代）が警報音に気付いて建物2階からの煙を確認して110番通報をし、駆けつけた交番の警察官が水バケツで初期消火を実施しました。小火で済み、在宅していた療養中の家族1名も無事避難することができました。

鍋のかけ忘れに気付き、火災にならなかった

(H22 11時20分頃)

共同住宅の一室において、居住男性（60歳代）が調理中にその場を離れたため、鍋の内容物が焦げ、住宅用火災警報器が鳴動しました。学校から帰宅した同じ共同住宅に住む女子中学生が、向かいの部屋からの警報器の音と煙に気付き、直ちに周囲にいた大人に知らせ、早い通報と初期対応ができたものです。鍋の中身を焦がしたのみで損害はありませんでした。

住警器の音に隣人が気付き、火災にならなかった

(H22 9時15分頃)

一般住宅において、居住女性（70歳代）が片手鍋をガスコンロにかけたまま外出してしまいました。住宅用火災警報器の鳴動に気付いた隣人が戸を開けたところ煙が充満していたため119番通報をしました。通報とほぼ同時刻に帰宅した居住者がガスコンロの火を止め鍋の内容物を焦がしたのみで損害はありませんでした。

住警器の音に隣人が気づき、火災にならなかった (H22 23時35分頃)

一般住宅において、居住男性(50歳代)が調理中にその場を離れ寝てしまったため鍋から煙が上がり、階段に設置してあった住宅用火災警報器が鳴動しました。近隣の住民数名が警報音に気づき119番通報をするとともに、火元の男性宅に駆け込み寝込んでいた男性に知らせ、早い通報と初期対応ができたものです。鍋の中身を焦がしたのみで損害はありませんでした。

火災にいち早く気づき、小火で済んだ (H22 20時10分頃)

一般住宅において、延長コードの劣化により短絡し出火して火災となりました。家人が入浴中に警報音に気づいて居間に行くと、柱に設置された電源コードから火が立ち上がっていたため、洗面器に水を汲み初期消火を実施し小火で済みました。

住警器の音に通行人が気づき、小火で済んだ (H22 18時45分頃)

一般住宅において、タバコの吸い殻から火災となりました。通行人が警報音に気づいて119通報をしたもので、畳やたんす等が焼けただけの小火で済みました。

鍋等のかけっぱなしに気づき、火災に至らなかった (H23 2時40分頃)

市営の共同住宅で、居住男性(70歳代)が鍋をコンロにかけたまま寝入ってしまい、住宅用火災警報器の鳴動に気づいた隣人が119番通報しました。
また、隣人はドアを叩き、寝ていた家人に知らせ、非火災ですみました。

火災にいち早く気づき、小火で済んだ事例 (H23 17時48分頃)

IHクッキングヒーターに埃除けのため段ボールを被せた状態でグリルを使用したため、排気口部分で過熱された段ボールに着火してしまい住宅用火災警報器が鳴動。
訪問介護に来ていた介護員が住宅用火災警報器の鳴動に気づき、台所を確認したところ火煙を発見、付近の毛布等を使用し消火したため小火で済みました。

鍋等のかけっぱなしに気づき、火災に至らなかった (H23 16時05分頃)

共同住宅の一室において、ガスコンロに鍋をかけたまま外出してしまいました。この部屋の前を通った同じ共同住宅の住人が、住宅用火災警報器が鳴っていることに気づき、煙の臭いがしたため119番通報し、鍋の内容物を焦がしたのみで損害はありませんでした。

火災にいち早く気づき、小火で済んだ事例

(H23 0時45分頃)

共同住宅において、居住者が線香に火をつけたまま外出。火のついた線香が何らかの原因により転倒し、周囲にあった繊維類に線香の火が接触し出火したため、住宅用火災警報器が鳴動。隣人が鳴動に気づき火災を発見し、備付けの消火器で初期消火したため小火で済みました。

火災にいち早く気づき、小火で済んだ事例

(H23 19時33分頃)

一般住宅において、天ぷら鍋をコンロにかけたまま風呂掃除をしていたところ、住宅用火災警報器の鳴動で出火行為者及び家族が気づき、濡らした座布団をかけ初期消火したため小火で済みました

火災にいち早く気づき、小火で済んだ事例

(H23 2時10分頃)

平屋建て住宅において、80代の父親が、28年前に製造された電気毛布をこたつに掛けて寝ていたところ電気毛布から出火。父親は火災に気付かず寝ていましたが、廊下に設置していた住宅用火災警報器の鳴動に長男が気づき、風呂の残り湯を掛け初期消火したため父親に怪我はなく、火災も小火で済みました。